

愛知県における高病原性鳥インフルエンザの続発事例に関する
現地対策会議概要
(令和7年1月17日開催)

1 愛知県常滑市における HPAI 続発事例の疫学的分析

【地域への侵入に関する要因について】

- (1) 発生地域には、農業用のため池、農業用水路、河川が存在し、水きん類が確認されている。これら水きん類により、当該地域に高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という。）ウイルスが持ち込まれた可能性がある。
- (2) 発生地域ではカラスが多数上空を飛んでおり、周辺の雑木林にカラスのねぐらが存在すると考えられる。また、1例目農場においては、HPAI 陽性の死亡ハシブトガラスが確認されている。このことから、今シーズン、当該地域のカラス群で HPAI ウイルスが循環しており、1例目農場に感染をもたらした可能性が疑われる。
- (3) 1～3例目の所在する養鶏団地には、空き鶏舎が存在し、野生動物の住処となっていた可能性がある。

【地域内での拡大に関する要因について】

- (4) 常滑市においては、12月～1月はほぼ降雨がなく、低温・乾燥が続いている。このことが HPAI ウイルスにとって生存しやすい環境となった可能性がある。また、12月～1月は北～北西から強い風が吹く日が多く、この風により、HPAI ウイルスが地域で拡散した可能性がある。
- (5) (2)のとおり、カラス群で HPAI ウイルスが循環している可能性があり、感染しているカラスやその他の鳥類が周辺地域へウイルスを拡散させるおそれがある。
- (6) 高いレベルでの飼養衛生管理が実施されていると考えられるウインドウレス鶏舎の農場においても、発生が確認されており、入気口からの HPAI ウイルス侵入の可能性も考えられる。
- (7) 1例目の発生鶏舎については、誘導換羽中であつたため、異状の発見が遅れた可能性があり、その間ウイルス量がかなり増大していたことが疑われる。
- (8) なお、本疫学的分析は現時点で得られている情報に基づくものであり、今後のウイルス学的な分析の結果等を踏まえ、引き続き分析を行う。

2 1を踏まえた発生地域周辺の農場における対策

- (1) 常滑市では今後も低温・乾燥が続くと考えられることから、浮遊している HPAI ウイルスを物理的に落下させる効果も期待して入気口付近で液状の消毒薬を散布することなどが推奨される。
- (2) 農場内で使用しなくなった鶏舎や廃業した農場の鶏舎がある場合、野生動物が隠れる格好の場所となり得ることから、閉鎖し施錠できる場合は確実にこれを行い、難しい場合は鶏舎内を整理整頓し、可能な限り毎日見回りを行うことなどが推奨される。

3 特に養鶏密集地域において行うべき対策

- (1) 養鶏密集地域においては、ひとたび1農場で HPAI が発生すると、その後の続発のリスクが高いため、初発例を起こさないようより一層高いレベルの発生予防対策が求められる。個々の農場における飼養衛生管理の徹底はもちろんのこと、農場と地域が一体となった取り組みが推奨される。地域すべての農場及びその周辺における消毒の励行、鶏舎及び堆肥施設等における防鳥ネットの設置、死亡鶏や廃棄卵の適切な処理やこぼれ餌の清掃等野鳥及び野生動物の誘引防止等の対策を徹底し、地域として HPAI ウイルスの侵入の隙を作らない取組が重要である。
- (2) ひとたび HPAI ウイルスが鶏群に侵入すると急速に増殖をする。続発を起こさないためには異状鶏の早期発見・通報が極めて重要である。飼養する鶏群の様子が少しでも普段と異なると感じた場合は、躊躇せず家畜保健衛生所へ連絡することにつき、地域全体で認識を共有することが必要。また、誘導換羽中は、異状を見落としやすいことから、その点を留意し毎日の健康観察を行うことが重要である。
- (3) 発生が起きてしまった場合は、迅速な防疫措置を行うことが重要である。その際、塵埃対策として鶏舎内・農場敷地内での逆性石鹼の噴霧、ネズミ等の対策として発生農場及び近隣の農場で粘着シートを設置するなど、近隣・周辺農場への HPAI ウイルスの拡散防止対策に十分留意する必要がある。加えて、発生鶏舎の殺処分完了後は、近隣農場に近い鶏舎から殺処分を進めるなど、HPAI ウイルス拡散防止の観点から、殺処分を行う鶏舎の優先順位付けを検討することが重要である。
- (4) 地域内で発生した場合に塵埃等を介して感染が拡大することを防ぐため、HPAI のシーズン中は、ウインドウレス鶏舎においては入気口へのフィルターの設置や細霧装置の設置、開放鶏舎におい

ては開口部へ消毒薬をしみこませた不織布の設置等を行うなど、飼養衛生管理基準よりも一段踏み込んだ対策を行うことが望ましい。

- (5) 周辺地域における対策として、農場外の道路等周辺環境における消毒の実施、発生エリアへ出入りする車両の消毒強化、各農場に立入る車両について可能な限りルートが重ならないようにすること、死鳥保管施設等複数の農場が共通で使用する施設における交差汚染防止対策の徹底が重要である。

上記の他、本対策会議で示された対策について、地域の実情に応じて実施することが重要である。